

上顎インプラントオーバーデンチャー (IOD) & 下顎固定性ブリッジの症例



大阪工場・部長
スーパーテクニシャン
日本歯科審美学会認定士
インプラント専門歯科技工士
アタッチメント担当
山下 正晃



術前の口腔内の状態
及びインプラントの埋入位置

●術前の状態

左上臼歯部上顎膿胞による摘出術後のため骨喪失、上顎前歯部の唇側骨が著明に吸収しブリッジはフレアアウト、義歯経験なし。

●主訴

奥歯がないので噛めない。どちらかでも噛めるようになりたい。

●部位

・上顎フルインプラントオーバーデンチャー
(右側3番と左側2,3番は天然歯支台、左右4番相当部にインプラント支台)
・下顎左右5,6,7番ハイブリッド前装冠ブリッジ
(右側6,7番と左側5,7番にインプラント支台)

●治療及び補綴設計のポイント

下顎はボンカンカード構造で対応可能。上顎は「臼歯部の術後骨状態が不良で使用困難」「唇側骨著明吸収の改善」「天然前歯支台ブリッジのみでは力学的に不利」「歯列フレアアウトの改善」などを考慮しオーバーデンチャーを選択。さらに天然歯とインプラントを利用した可撤式だが確実な固定が可能なタイプなものとしてテレスコープタイプを選択。

●作業前の注意点

上顎においては、歯根膜を有する天然歯と極めて動きのないインプラント支台、さらには歯槽粘膜といった、被圧変位の異なる支持組織を一つのフレームで連結するオーバーデンチャーをバランスよく製作していくこと。

下顎においてはカンチレバーを含む固定式インプラントブリッジということで上下顎の咬合様式、歯列などの設定に注意を払いました。

●作業工程

- ① 下顎臼歯部フレーム作製
- ② 上顎天然歯部内冠の作製
- ③ 内冠ビッタアップとフィクスチャーレールの印象採得
- ④ 咬合床による咬合採得
- ⑤ アバットメント加工
- ⑥ 外冠及び金属床
- ⑦ 口腔内にてフレーム連結
- ⑧ フレームのロー着
- ⑨ 排列・ワックスモールド
- ⑩ 最終試適後義歯仕上げ

●作業時の注意点

正中の改善に伴う支台歯の位置と前歯の排列と前装形態の調和。上顎の義歯の義歯のインプラント埋入ポジションに対するインプラントブリッジの歯冠形態の設定と咬合の調和。

●完成



●術後(口腔内装着)



(補足)
この治療の後、患者様より下顎2112部の審美性向上の希望がありメタルボンドを補綴。写真は補綴前の状態。



●まとめ

本症例において、下顎は固定性のインプラントブリッジ。上顎は、左右4番相当部のインプラントを最後方支台とする、遊離端欠損部に対して回転軸をもつオーバーデンチャーとした。上下顎とも、義歯の機能時における天然歯、インプラント及び歯槽粘膜の各支持組織に対して大きな負荷がかからない設計のバランスがポイントと考えられます。

予後の観点から、それぞれの支持組織の変化や咬合の確認など、定期的なメインテナンスをおこなうことがインプラントオーバーデンチャーを長期的にわたって使っていく上で重要な要素と考えられます。

最後に本症例の掲載へご協力及び、製作に対してラポサイドへの適切な指示とご指導をいただきました、はだの歯科クリニック院長 波田野哲也先生(兵庫県姫路市)で開業に深く感謝申し上げます。



©2003